

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第2回所沢市みどりの審議会
開 催 日 時	令和元年7月29日(月) 10時00分から11時45分 まで
開 催 場 所	市役所2階202会議室
出 席 者 の 氏 名	亀山 章、荻野 豊、中安 直子、木村 智子、長谷川 勝、大谷木 康一、 原口 雅人、塚原 高志、水上 哲朗、三ツ木 雅秋、関谷 佳和(以上、 審議委員) 城戸 基秀、前田 博之(以上、公益財団法人 埼玉県生態系保護協会)
欠 席 者 の 氏 名	池邊 このみ
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) 生物多様性とところざわ戦略の策定について (2) 三ヶ島二丁目里山保全地域の区域の変更(指定拡大)の諮問について (3) 平成30年度所沢市みどりの基本計画の施策実施状況について
会 議 資 料	・ 次第 ・ 資料1「生物多様性」に関する世界や国内の動向 ・ 資料2 指標動植物調査について ・ 資料3 アンケート・ヒアリングについて ・ 資料4 計画書 里山保全地域の区域の変更(指定拡大) ・ 資料5 所沢市みどりの基本計画に基づく施策の実施状況(全施策) ・ 資料6 所沢市みどりの基本計画に基づく施策の実施状況(重点プロジェクト)
担 当 部 課 名	環境クリーン部長 廣川 澄芳 みどり自然課長 奥村 稔 みどり自然課 副主幹 荒井 直樹 みどり自然課 主任 荻野 敏行 みどり自然課 主任 児玉 治彦 みどり自然課 主事 北田 真唯

電話 04(2998)9373

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
水上委員	<p>1 開 会 市役所 2 階 202 会議室にて、みどり自然課 荒井副主幹の司会で開会。</p> <p>2 議 題 議題 1 生物多様性ところざわ戦略の策定について 「生物多様性ところざわ戦略」について、みどり自然課 児玉主任から概略の説明をおこなった後、資料 1、資料 2、資料 3 をもとに公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 城戸 基秀氏から説明をおこなった。</p> <p>資料 2 に指標動植物種を 120 種選定と記載されているが、完全に決まっているのか。たくさんありすぎると調査できないかもしれないが昆虫類の種類が少なく、偏っているように思う。種類はチョウとトンボと甲虫、バッタとなっているが、セミやハチ等が全くない。例えばミツバチは受粉を行う等、大事であり、セミは人の生活に非常に関わりがあるが、入っていない。例えばアブラゼミやニイニイゼミ、ミンミンゼミは皆さん聞かれると思うが、ヒグラシやツクツクボウシは最近あまり聞かれない。こういったものを調査の対象にしても良いと思う。それから先程のミツバチもそうだが、有名なファーブル昆虫記のスカラベという昆虫が動物のフンを幼虫の餌にするためにリサイクルをする。日本にも糞虫は存在し、ダイコクコガネはこのあたりにいないがセンチコガネは私も狭山丘陵で見たので、いると思う。そういうものが入っていたら良いのではないか。それから動物の死骸を餌とするシデムシも実際に皆さんが行ったときに見ているのでリサイクル性のある昆虫がもう少しでも良いのではないか。今後、見られなくなる可能性があるので入っていても良いと思う。あと、チョウの部類にキアゲハとあるが、例えばカラスアゲハやオナガアゲハ、ジャコウアゲハといったアゲハ類がいないことに加え、雑木林のチョウとしてオオムラサキ、コムラサキ、ゴマダラチョウはあるが、雑木林と非常に関係があるスミナガシやルリタテハ、キタテハ、アカタテハといったタテハチョウ科が入っていない。所沢は非常に雑木林が関係すると思うので、調査対象の中に入っていたらわかりやすく良いのではないか。希少性を言うときりがないが、アリもアリ類学会の資料で埼玉県全体で 77 種類位が確認されている。例えば面白いアリとしては山地性のムネアカオオアリがある。非常にわかりやすいアリで胸が赤い。普通その辺りにいるのはクロヤマアリやクロオオアリで</p>

	<p>あるが、所沢近辺には武蔵野市にはいないムネアカオオアリという面白いアリがいる。子どもたちが校庭やちょっとした散歩をしたときに胸の赤い大きなアリがいるというのは、面白いと思う。生物多様性を知るうえで身近にこのような自然があるのかという指標になるのではないかと。もし、調査の対象に入るのであれば、二次的な、要するにこの項目とは別個にもう一つの調査対象、もう少し大きくしたような調査票があっても良いのではないかと。ホタルもヘイケボタルがあるのでゲンジボタルがいるかどうか。それからクワガタムシはノコギリクワガタと書いてあるが、例えばコクワガタは普通だが、スジクワガタやヒラタクワガタはこの辺りにいるはずである。もう少し変わったものだとネプトクワガタがもしあればかなり希少性がある。高尾山では確認されているので、この辺りでもモミの木があればいる可能性がある。ヒラタクワガタも大分減っているクワガタなので、もしいるのであれば非常に希少性のあるクワガタである。ノコギリクワガタは都心部でも見られるがヒラタクワガタは非常に限られた地域にしかいないので、もし可能であれば項目に入ると良いのではないかと。挙げればきりがないのでこの位にしておく。</p>
木村委員	<p>市民向け、みどりのパートナー向けのアンケート案に、「あなたが今後参加、協力できそうな〈生物多様性〉を守る活動を教えてください」と質問があり、回答の選択肢の5番目に、「庭やベランダなどの身近にチョウやトンボなどの生きものを呼ぶ活動」とある。これ以外の選択肢は大体外で行う活動である。一方、これは自宅でできる活動となっている。私がいろいろな現場で皆さんに生物多様性についてお伝えするとき、外に出て行うものは体力等の関係もあり大変であるが、自宅で花を育てること等、少し配慮して蜜源になるものを植えたり、食草になるようなものを植えることによって生物多様性に協力できることを伝えると凄く喜ばれる。この選択肢の表現だけでは、何をすればよいかわからないので、もう少し蜜源になるような植物を植えて、ハチと書くと嫌がられるかもしれないので、チョウについて守ってあげるといったわかりやすい表現をしてもらえると回答しやすくなると思う。</p>
亀山会長	<p>もっと細かく書いた方がよい。</p>
城戸氏	<p>1や3もわかりにくいため、少し細かく書いてある。他の選択肢についても同様にどのような活動か一般の方が分かるように加えたい。</p>
亀山会長	<p>先程の種類を増やせないかとの水上委員の意見だが、限りなく増やした方が良いには良いが、増やすことは調査が大変となる。ついでに見る</p>

水上委員	<p>こと自体はあると思うが、今言っていたものはついでに見られない。つまり、ついでにとはいかないので、そのものの調査として行わなければならない。</p> <p>その通りである。季節の限定もあり、ミヤマセセリは春しかなく、ホタルにも時期がある。</p>
城戸氏	<p>仰るとおりで、これをつくるときもどれだけ削るかなかなか難しかった。1 ページの右下の現地調査の実施のところにも書いてあるが、いろいろな人が興味を持つかという観点から選んでこのようになったわけである。実際のところはこの他にも目にする生き物はいるので、それを常に記録していく形になる。その結果を見て、アピール力があるということがわかれば、その次にそれを用いて子どもたちへのアピールをしていけば良いと考えている。調査には昆虫に詳しい技師が入っており、見ればすぐに様々な分類がわかるのでその辺りは大丈夫である。</p>
亀山会長	<p>こういうことは種を決めて調査をすると言っても、その種だけというわけにはいかない。私は植物を専門としているが、草本類で挙げられている樹種をそれのみ探すというわけではなく、調査をしているときにいろいろなものが見られるので、それはそれで全て記録をするわけである。主に見たいものは種として挙げているが、それ以外のものも見られる可能性があるということで、皆さんに認識しておいてもらえれば良いと思う。</p>
水上委員	<p>チョウの中にキアゲハが入っているが、キアゲハとナミアゲハは区別しにくい。キアゲハはご存じのように人参、三つ葉の畑に行くとも幼虫が見られる。どちらがよいか難しいところではあるが、ここに挙げているのは栽培している人からすると害虫との見られ方をされないか。テントウムシも普通のテントウムシかどうか。</p>
城戸氏	<p>ナミアゲハは草地のチョウとして入れたかったものである。1、2 種増やせないというわけではない。</p>
水上委員	<p>そうであれば、ナミアゲハ、キアゲハは畑に行くとも探しやすいという点で特異である。駅前では、例えばクスノキについているアオスジアゲハが飛んでいたり、添え木にくっついていることがある。</p>
城戸氏	<p>仰るように普及啓発で言うと見やすいというのは結構重要だと思う。</p>

水上委員	<p>カラスアゲハやクロアゲハもいる。アゲハチョウ科は結構探しやすい。少し変わったオナガアゲハやジャコウアゲハになると難しいかもしれないが。</p>
荻野委員	<p>資料1の2ページ目右側の青枠部分の「生物多様性ところざわ戦略をなぜ策定するか」を見たが、1番ではみどりの基本計画等の施策の調整・統合するため、4番では所沢市においても取り組みを推進する必要があるためと書かれている。1つわからないことが、みどりの基本計画等との関係と最終的な戦略のアウトプットがどのような形になるのかが見えないので教えていただきたい。</p>
城戸氏	<p>みどりの基本計画との関係は、計画の基本方針の一つに生物多様性に配慮したエコロジカルネットワークの構築が定めてあり、新たに戦略をつくる中で具体化する。この戦略では、どのようにネットワークを形成していくかというところの具体的な方法、先程の庭に生き物を呼ぶこともその1つで、そういった方策を入れていくことを考えている。構成等については先送りで申し訳ないが、次回の協議会の中で具体的に示したいと思っている。基本構成としては「みどりの基本計画」と同じように考えており、「生物多様性とは何か」と「所沢市の生物多様性の状況」とそれを踏まえた「課題」があり、これを受けた「基本方針」と「将来像」とそれぞれに「施策」がぶら下がり、最後に推進するための方策を持ってくることを考えている。</p>
荻野委員	<p>そういった方向の中でこの調査区の設定は納得できるが、生物多様性のネットワークを考えているときには所沢の行政区域のみに目を向けてしまうと重要どころが抜けてしまう。例えば、私はこれまでトンボを追いかけてきたが、供給源という環境があり、そこから移動能力の高いものが分散する。どこまで広げるかという問題はあるが、今でも私が分かっている市境の周辺地にある供給源として重要な場所については、調査区にまでしなくてもよいが、しっかり把握をして、そのうえでネットワークのような考え方を考える必要があるのではないかと。どうしても所沢市でつくると市内エリアのみになってしまうが、生物多様性のことを考えれば境を外して柔軟に考えたほうがよい。</p>
亀山会長	<p>今のようなご意見のときはここが大事だという場所を言っておいてもらえるとよい。今後、気を付けた方がよい。</p>
荻野委員	<p>具体的に1つあるのは、入間市側にある。資料1の「調査地区の選定」</p>

	<p>という地図の A①と書いてある赤丸の真上あたりである。ちょうど不老川の調整池があり、現在埼玉県で工事をしている。その回廊を保全することが重要である。マルタンヤンマ等が沢山発生しているので、所沢市側で入間市域について物を言うことはなかなか難しいが、その点が重要であることを押さえてほしい。</p>
城戸氏	<p>大森調節池のことか。</p>
荻野委員	<p>その通りである。</p>
水上委員	<p>日本では少ないものの、旅をするチョウにはアサギマダラがいる。所沢でも生息しているのであれば別だが、かなりの飛翔能力があり、偶然いたところを目撃したからといって生息と勘違いしてはいけない。糞虫もそうである。それからギフチョウ等はこの辺りにいないと思うが、例えばマニアが採集してきたものが逃げてしまって、たまたまカタクリが所沢にあるので、春先にカタクリにギフチョウがいたとすると、ギフチョウが生息していると勘違いしないとも限らない。要するにたまたま飛来していたというような疑問符を付けなければいけない調査対象のものも出てくると思う。</p>
原口委員	<p>意見だが、特に指標植物の調査について、とりあえず種を確認するというような内容の調査になっているが、量的な調査はおこなうのか。特に希少植物についてはどうか。</p>
城戸氏	<p>実際には森に行って、そこで確認し、希少種でないものについては森にいたという調査だけだが、希少種についてはできれば地図を持って行ってどこにいたか確認をしていきたい。</p>
原口委員	<p>資料1の説明であった遺伝子の多様性について私が常にこだわっているのが地理的なもので、要するに余所のものを勝手に持ってくるのがまずい。もう1つ重要なことが個体数で、健全な子孫を維持するために必要な量の問題があり、特に植物については非常に重要である。1個体のみだが、重要だと言っても子孫は残らないので、希少植物については特に量の問題をとらえていただければ良い調査になる。</p>
亀山会長	<p>今回はここで調査をするが、これから先を考えると、10年ごとにやっていくと成果が得られる。そのため調査した場所がしっかりわかるような形で、GPS等でわかるようにして、後々追えるようにしておくといよい。</p>

	<p>今回は初めて実施するわけだが、5年か10年間隔でやっていくと変化が追え、気を付けなければいけないことも出てくる。そういう風に役立つことが重要である。</p>
城戸氏	<p>例えばだが、調査範囲を決めて、その中にいるというレベルでは弱いかな。</p>
亀山会長	<p>そのようなことで良い。</p>
城戸氏	<p>調査地点については区域を決めて調査をする予定なので、それを継続し、蓄積させていけるようにする。</p>
亀山会長	<p>環境省ではモニタリングサイト1000というものをやっているが、これは草地、森林、河川、湿地など、1000か所のモニタリングサイトを全国に置いて、毎年調査をしている。傾向がよくわかるため、そのようなモニタリングサイトを所沢市内に設けてもらえるとよい。毎年とは言わないが、5年か10年ぐらいの間隔でやっていただくと、変化がわかり、そのような資料があれば、具体的に何をどうしたらよいかはわかってくる。大事なことなので今回の調査の中にそのような意図も含めておいてもらえると良い。</p>
水上委員	<p>今会長が仰ったように調査すれば、委員からもあったように個体数が少なく死滅する可能性があるため、保護しなければいけないという考えが出てくる。トキやコウノトリを繁殖したように、例えば昆虫であれば、捕獲して卵で増やしたり、オオムラサキが少ないのであれば、雑木林の周りにエノキを増やしてオオムラサキが孤立しないように繁殖範囲を広げてあげる等、次の戦略を行う下調査になると思う。ただいたというのではなく、本当に危険であれば保護や繁殖を考えて、危険度を5段階評価のようにしてプライオリティをつけて、保護する順番を考える。早急にしなければならないのか、少し放っておいても大丈夫なのか、何年後かにはやったほうがよいのか等、プライオリティの段階を調査と同時につけてやるとよい。</p>
亀山会長	<p>いろいろ意見をいただいたので参考にしながらやってもらえればと思う。</p>

	<p>議題2 三ヶ島二丁目里山保全地域の区域の変更(指定拡大)の諮問について</p> <p>藤本正人市長に代わり、廣川環境クリーン部長より諮問書の提出をおこない、資料4、資料5をもとに、みどり自然課 児玉主任から説明をおこなった。質疑応答については次のとおりであった。</p>
亀山会長	<p>現地を見に行くのか。</p>
児玉主任	<p>今回については、以前に1度行っていることもあり、計画図で代えさせていただければと思う。</p>
亀山会長	<p>次回9月の審議会のときに答申をするわけである。</p>
荻野委員	<p>先程の説明では補償の支援が今年度からスタートしたと仰っていたが、既に指定されている里山保全地域も全て適用されるという理解でよろしいか。</p>
荒井副主幹	<p>その通りである。これまで5か所指定されているが、全て含まれる。</p>
水上委員	<p>届け出が必要となるということだが、いろいろな採取がだめとある。しかし、動植物の採取については触れられていない。例えばトンボやモンシロチョウを捕ったらいけないと言われると、別に問題がないと思う。今回も調査すると思うので、オオムラサキのように絶滅に瀕していたり、できるだけ捕らない方が将来的に生息を縮めないと思われる種については、市でⅠ類、Ⅱ類等と指定したらよいのではないか。指定種、例えば最後の絵にあったキンランやカンアオイ等の動植物を採取するのはあまり好ましくないと思うので、この中に市指定もしくは、希少種の動植物の採取も入れた方がよいのではないか。記載がないから良いではないかとなってしまうので、そのあたりを触れられたらよい。</p>
亀山会長	<p>これは制度のことなので、次に改正するというようなことがあった時に考えていただけるとよい。</p>
原口委員	<p>先程計画図の⑦でこの場所をアカマツ林にという話だったが、現在まだ松枯れが埼玉県で発生しているので、あえてアカマツ林にするということではよいのか心配である。次回の説明でも構わない。</p>

<p>亀山会長</p>	<p>私は挑戦的で良いと思う。アカマツ林が皆消えてなくなっているの で、以前あったから再びアカマツ林があるようにしたいという熱意を感じた。</p>
<p>奥村課長</p>	<p>その点については、そうしたやり方も念頭においてというようにご理解 いただきたい。どのように土地を再生していくかというのは、これから 調査、研究、検討していくところである。必ずしも、絶対にアカマツ 林にしていくという断固たる決意があるわけではない。</p>
<p>荻野委員</p>	<p>ここは地形的には1番高いところの尾根筋で、樹木が全て伐採されて しまったところである。写真を見ると、緑になっているが、オオブタク サやニセアカシア等ばかりである。難題ではあるが、狭山丘陵からかな りなくなってしまったので、希望として是非アカマツ林をお願いした い。</p>
<p>奥村課長</p>	<p>購入するときに、市民の方や議会に対して周辺の植生に準じて再生し ていくと説明しているの、あまり周りと同様相が変わってもいけないと 私共の認識として持っている。荻野委員が仰った内容もあるので、話し 合いながらやっていく。既にコナラの小さいものは生えてきており、1 度雑木等を伐採しないといけないので、今年度は予算化している。委託 して機械を入れて一旦綺麗にする。ただ、在来の植物も芽吹いてきてい るという話もあるので、きちんとリボンを付けてそれらを伐採しないよ うに気を遣いながらやっていく。</p>
<p>関谷委員</p>	<p>里山保全地域に指定されるとみどりのパートナー制度が受けられる が、三ヶ島二丁目里山保全地域には実際にみどりのパートナーさんが一 緒に管理しているところがあるのか。墓地の計画地の中に希少種のカン アオイがその前に確認されて、墓地になってしまうことから5株か6株 移植した覚えがある。移植した後は、行政が管理しているのであろうか ら、その後についてはモニタリング等できていると思うが、その2点に ついて教えていただきたい。</p>
<p>奥村課長</p>	<p>みどりのパートナーの活動については、時々地権者の方が協力者を募 って少し手を加えているということはあるが、パートナー団体として正 式に活動しているというところは今のところない。ただ、ついこの間全 てはできないが一部だけでもみどりのパートナー団体として登録して 今後活動していきたいという話があり、これからこの場所に入り込んで 行ってもらう状況である。そうしたことで、活動の輪も広がっていくと</p>

	<p>感じている。更に、まだ確定ではないが⑦の墓地計画地のところを中心としてトトロのふるさと基金さんや埼玉県生態系保護協会さんや早稲田大学等が協働して保全していけたらよいという話が持ち上がっている。そのような組織ができてくれば、今後、県立高校も隣接しており、少し歩けば所沢市立の中学校もあるので、若い方々にも参加、賛同していただきながら、この広い区域を良好な樹林地として管理していければよく、現在一生懸命温めている状況である。</p>
児玉主任	<p>それから墓地計画地からカンアオイを 5 株移植されたことについては。</p>
関谷委員	<p>5 株か 6 株かは忘れてしまったが。</p>
児玉主任	<p>把握していないので確認してみる。</p>
水上委員	<p>早稲田大学には生物同好会があり、私自身は昆虫班だったが、その他に植物班があった。もしかすると調査しているかもしれないので、交流があれば、そういうものも活用するとよいのではないか。</p>
	<p>議題 3 平成 30 年度所沢市みどりの基本計画の施策実施状況について 資料 5、資料 6 をもとに、みどり自然課 北田主事より説明を行った。質疑応答は以下のとおりであった。</p>
亀山会長	<p>所沢市はみどりの基本計画の施策を非常に頑張ってやっている。なかなかこうもいかないものである。みどりに関する施策は思ったほど上手くできないものだが、このように保全すべき緑地がどんどん増えており、なかなかできないことをよくやっているという印象である。</p>
木村委員	<p>質問ではないが、毎年資料がわかりにくく、説明を聞いてわかる人がどのくらいいるのか。私は慣れてきたのでわかるが、これを市民の方が聞いたら、全く分からずに終わってしまう。折角目標を達成しているものが数多くあるにも関わらず、そういったことが市民の方に対してアピールされていないと最近強く感じる。例えば、この審議会のためでよいので表ではなく、パワーポイントでわかりやすく説明する資料をつくり、それを毎年みどり自然課のホームページ等に PDF で公開していただくと、所沢市がこんなに頑張っているということが市民の方にも説明できる。私自身も所沢市は「何もやっていないね」と言われた際に、「いや、そうではなく頑張っているのだけ」と言っておける資料があると</p>

	<p>非常に嬉しいので。この会議のためでよいのでパワーポイントで、「こんなに頑張りました」であるとか「昨年度まではこうだったので来年度はこれを頑張ります」等のわかりやすい資料をつくり、市民にも出せるようにしてもらえると嬉しい。</p>
<p>亀山会長</p>	<p>折角頑張っているのであるから、もっとわかりやすくしていただくとよい。</p>
<p>三ツ木委員</p>	<p>会長が仰ったように非常に所沢市は頑張っているということに、市民として私も同感である。先程のアカマツの話になるが、40 数年間所沢にいて思ったことがある。昔は雑木林があって、アカマツが生えていてその下を空気が通ってくるため、直射熱がなく、涼しかった。是非 40 年前のアカマツ林を再現することを最終目標にみどり自然課として頑張っていたきたい。頑張っていないと言っているのではなく、むしろ他の市町村と比べれば随分と頑張っているほうだと思うので、市民として是非昔の所沢のみどりを取り返してほしいと期待する。</p>
<p>水上委員</p>	<p>今日、航空公園の駅を降りたときにセミの鳴き声がたくさん聞こえて、特にミンミンゼミだが、アブラゼミやニイニイゼミもいた。今年ミンミンゼミが鳴いているのを初めて聞き、所沢は駅を降りてもすぐにこれだけ豊かに自然を感じられるところであると痛感した。今も賞をいただいた話を聞いて、この委員をやって良かったと感動している。先程の説明の中に「駅前広場の緑化の推進」というところがある。4 か所指定している中に航空公園の駅もあるようだが、全て未実行になっている。折角項目があり、駅前という 1 番目立つ場所にも関わらず、達成されていない理由はどのようなものか。</p>
<p>児玉主任</p>	<p>駅前自体は民間の土地になっており、協力を働きかけるのが難しかったためである。機会を見ながら駅前の緑化を仕掛けていかないとうまく緑化が進まないと感じている。現在 1 つあるのが、西所沢駅がこれまで開かずの踏切となっており、駅舎を超える階段がなかったので今後改修していくという話がまとまってきた。こういった機会にうまく緑化を組み込みながらやっていく。他にも所沢駅の西口も再開発で非常に動きがあるところなので、そういった動きがある中でうまく絡ませながら緑化を進めていかないと難しかったというのが過去からの反省である。</p>
<p>荻野委員</p>	<p>4 ページの「I-16 健全な生態系の維持」という項目でアライグマの駆除が実施した取り組みとして報告されている。これだけではなく、</p>

	<p>可能であれば頭数や規模がわかるとどのくらい実施されたかが見える。</p>
亀山会長	<p>今わかるか。</p>
廣川部長	<p>昨年度は30頭前後、今年度は多く、今の時期に昨年並みの30頭前後となっている。</p>
亀山会長	<p>罾によるものか。</p>
廣川部長	<p>箱罾である。</p>
水上委員	<p>ブルーギルのような魚関係は駆除の対象か。</p>
廣川部長	<p>有害鳥獣を駆除の対象としているので、対象ではない。</p>
水上委員	<p>害虫等とあるが、害虫は何か対象の種等を指定しているか。</p>
廣川部長	<p>現在はアライグマ中心である。ハクビシンも捕獲しているが、ターゲットを完全にアライグマとし、餌を変え始めてからはハクビシンは捕れなくなってしまった。やはり食べ物や住むところが違うということがあ る。</p>
亀山会長	<p>たくさん捕れたということはどんどん増えていっていたということ である。</p>
廣川部長	<p>西の方でアライグマが多い。</p>
水上委員	<p>被害は何かあるか。</p>
廣川部長	<p>畑等で被害があるので、そのようなところを中心に罾を仕掛けてい る。定期的には早稲田の南側のあたりにセッティングしており、必ず捕 獲できている。</p>
三ツ木委員	<p>西の方の市から流入してくるということか。</p>
廣川部長	<p>西側の方が山が多いので生息しやすいのではないか。</p>
亀山会長	<p>放っておくと、例えばトウキョウサンショウウオが全て食べられてし</p>

	<p>まう。東京都の日野やあきる野はトウキョウサンショウウオが初めに発見された場所だが、ほとんどいなくなっている。皆食べられている。卵も生体も食べられ、アカガエル等も食べられてしまうので、放っておくと相当大変なことになる。</p> <p>議題 4 その他</p> <p>当日配布資料をもとにみどり自然課 荒井副主幹より第 3 回みどりの審議会の日程調整を行った。調整の結果、次回は 11 月に変わり、9 月 27 日(金)の開催として了承された。</p> <p>3 閉 会</p> <p>みどり自然課 荒井副主幹より審議委員へお礼のあいさつが行われた後に、閉会した。</p>
--	---